

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	別所市場・太陽と大地のマルシェ継続実施と食と農業を軸とした地域振興事業
事業主体 (連絡先)	別所温泉観光協会 0268-38-3510
事業区分	ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	2,226,616 円 (支援金額 1,669,000 円)

**事業内容**

○別所温泉の中心部で現在空き地に近い状態になっている旧相染閣跡地にて2日間にわたり第三回別所市場～太陽と大地のマルシェ～を開催した。地元の農産物直売を軸とした販売ブースや地元の飲食・信州の料理販売ブースを出店し、同時に集客と来場者が農産物についての理解や食についての関心が深まるよう食の専門家である講師を呼んだ野外講演や、来場者が楽しめるよう音楽・パフォーマーを呼んだステージイベントを含めた様々な企画を実施した。

**【イベント会場の様子】**



**事業効果**

- ① 期間中は 1540 名の地元住民や観光客が来場した。また今回で3回目となるため、地域にも定着したとを感じる。
- ② 野菜・果物・加工品他市内のB級グルメや酒など幅広い食の提供がイベントを通じて図れ、またステージイベントや講演については信州・地元の食材に触れることも多く地域食の理解につながったと思われる。
- ③ 別所温泉内の旅館組合を含め、JA、あさつゆ、酒造組合、有機酪農会他地域の食に関わる団体と幅広く連携できた。
- ④ アンケートを実施したことでイベントについてのポジティブな感想が多く、また今後の活用についての希望や意見もあり、行政関係者も多く来場したことから今後の活用を訴えることができた

**【目標・ねらい】**

- ① 地元農産物や食を通じて多く観光客と地域住民が来場するイベントを開催
- ② 別所温泉と塩田平地域の新しい魅力を食の啓発や購買を通じて発掘し、地域と観光客への理解を深める
- ③ 地域内外の各団体と連携したイベント実施
- ④ 空き地である旧相染閣跡地を活用することで今後の地域振興につながる発展的使用を検討

**※自己評価【B】**

**【理由】**

全体的に必要とされる事業は滞りなく完了し事故や不備がなくイベントが開催できた。また来場者(特に地元客と観光客)が前期よりは増加したが目標からは減少した。継続したメリットや周知はあったが、秋の多くのイベントと重なったこともある。また直売所のテントなどは例年通り出展されたが地元別所温泉の飲食店やお店の参加が少なく、より全体での取り組みをしていかないと感じる。次年度や今後は、イベント自体をどのように継続していくかだけでなく、台風による農業被害を払拭するためのイベントや、来場者をいかに別所温泉内に回遊させるかなども視野に入れて行きたい。

**今後の取り組み**

今後も同様なイベントを継続して実施したり、農業と食に関わる連携を内外で強めながら、地元での啓発と観光客に商品として提供できる仕組みを構築し、観光振興や農業・食文化の発展に寄与したい。また跡地についてもアンケートや実施した意見や感想を元に地域全体でどのように活用していくかの取り組みを検討していきたい。

### 平成31(令和元)年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	上田地域産業展を見に行こう！ “子供たちに地元の産業と企業を知ってもらおうプロジェクト”
事業主体 (連絡先)	上田商工会議所 中小企業相談所 地域振興課 大久保 努(課長) TEL0268(22)4500
事業区分	(6)オ 雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	899,576 円 (うち支援金: 719,000 円)

#### 事業内容

「上田地域産業展」は、地域の小学生・中学生・高校生に上田地域の産業と企業をより深く具体的に知る機会を提供し、もって将来の上田地域への就業に結びつけることを目指しています。

子供たちに地元の産業・企業を知ってもらうことは「長い目でみた地域の一大リクルート事業」です。

授業等で訪れてくれた地域の子供たちが、親が勤めている会社の業務内容や、上田地域の会社を知ることができ、将来地元企業に就職してくれる可能性の種を着実に植え付けています。今は直接利益にならなくても、少し長い目でみていただき、多くの子供たちが産業展を訪れてくれれば、将来的には間違いなく“地域の利益”となります。支援金事業でクローズアップしてみました。



【上田地域産業展の様子】

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 当初管内の小中学校を中心に240名を目標にしていました。結果、中学校1校6クラス180名、高校1校24名、大学1校27名、専門学校140名であり合計371名。次年度は、当初の目標通り小中学校の来場を多く目指したい。
- ② 中学生のアンケート結果を見ても、産業と企業の内容に興味を持ち、学んでいることがわかった。
- ③ 同じくアンケート結果を見ると、ものづくりの楽しさ、素晴らしさを分かってくれていることがわかる。
- ④ 同じくアンケート結果を見ると、数人ではあるが、将来地元上田に就職を希望する意見があったことは嬉しかった。

#### 【目標・ねらい】

- ① 授業で産業展を訪れてもらう
- ② 産業と企業を知る機会の提供
- ③ ものづくりの重要性を認知
- ④ 将来地元上田に就職を目標

#### ※自己評価【 A 】

##### 【理由】

昭和56年から開催している「上田地域産業展」の当初からの目標を改めて支援金事業を使って深掘りができたから。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後も継続して産業展事業を実施することが、子供たちに上田地域の産業と企業を知ってもらう目標を達成することと考えております。今回、学校に訪問してみて感じたことは、相当前に年間カリキュラムが決まっていることがわかりました。事業の一つ一つを検証、小中学校への呼びかけは1月までに済ませる。コンシェルジュは、評判が良かったので人数を増やしたい。チラシの効果が高いので来年度も実施したい。地元の企業の魅力を伝えている他の団体などとも連携したい。

### 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	山城の魅力発信と保全・活用による地域振興
事業主体 (連絡先)	全国山城サミット上田・坂城大会実行委員会 実行委員長 内田 守之 (事務局) 上田市教育委員会 生涯学習・文化財課 〈電話〉 0268-23-6362
事業区分	(3) 教育、文化・スポーツの振興に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1, 374, 628円 (うち支援金: 1,057,000円)

#### 事業内容

令和2年度に計画している全国山城サミット上田・坂城大会の開催に向けて、各山城の保存活用を担ってきた山城保存活用団体の相互連携体制の構築と、若い世代への魅力発信ツールの検討を行い、担い手の育成と地域全体で山城を守り伝えていくための機運醸成を図った。

- ・サミットプレ大会の開催
  - 11月2日 上田市西部公民館 約120名参加
- ・全国山城サミット可児大会の視察及び令和2年度上田・坂城大会開催のPR活動
- ・令和元年東日本台風で被災した山城登山道の整備及び復旧作業
  - 10月～2月 飯綱山城跡・米山城跡ほか

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 実行委員会メンバーの増加
 

SNSで山城の魅力を発信する皆さんが新たに参加し、活動を盛り上げた。
- ② プレ大会の参加者目標200人
 

令和元年東日本台風により開催周知が遅れ、目標に達しなかったが、SNSにより県外からも参加者があった。
- ③ 登山道案内板の新規設置
 

山城の登山道入口に新たに3ヶ所設置できた。
- ④ サミット開催機運の醸成
 

「山城サミット盛り上げ隊」などの取組が生まれた。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

実行委員会は今後も個人に参加を募り、地区公民館と連携して、地域の山城の価値や魅力を見直す契機となることを期待している。また、SNSを駆使して山城を楽しむ皆さんが、草刈りなどの山城整備を経験する講座を開催し、保存活用団体の活動に参加できるような機運も醸成したい。こうした「山城を楽しむ講座」は地域住民と実行委員会が接点を持つことで、協働の裾野を広げるきっかけにしたい。

なお、全国山城サミット開催後は、実行委員会を「保存活用団体連絡協議会(仮)」に移行し、広域的かつ自主的な山城保存活用の取組ができる団体へと昇華すべく、活動を続けていきたい。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【プレ大会の様子】

#### 【目標・ねらい】

- ① 実行委員会メンバーの増加
- ② プレ大会の参加者目標200人
- ③ 登山道案内板の新規設置
- ④ サミット開催機運の醸成

#### ※自己評価【A】

##### 【理由】

- ・プレ大会 SNS 分科会に約60名参加、情報拡散にも一役買った。
- ・3か所の案内板設置により、地域への山城の周知が図れた。
- ・「盛り上げ隊」が活動を開始。

## 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	こだまジャズ開催事業
事業主体 (連絡先)	こだまジャズ実行委員会 (長野県上田市常田 2-27-17 0268-75-6100)
事業区分	教育文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	776,922 円 (うち支援金: 371,000 円)

### 事業内容

令和元年6月15日土曜日13時より、信州国際音楽村屋内ステージ「こだま」にて、トリプルスタンダード、Chinemusique、大和田慧の三バンドによるジャズコンサートを中心に、上田市近隣で生産される朝どれ野菜の販売、地元食材を使った軽食の販売、地元で生産されるワインのグラス販売、地元焙煎士の珈琲などを含めたジャズフェスを開催。

地域の飲食店、商店、地域のボランティアの方々と協議を重ねフェスを盛り上げ地域の振興を図りながら、市外・県外からの集客、地域産品の販売を強化と別所温泉などの観光地域の誘導を図るために観光協会とも連携を行い地元飲食店・宿泊地・ショップを網羅したリーフレット作成し来場者に対し配布した。



【全員での演奏風景】

### 【目標・ねらい】

- ①地域の食材の販売と地元食材を利用した飲食物の販売
- ②県内外からの集客と地域振興
- ③地域の方々との協働

### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・集客目標 130 名に対し、実際の集客数 136 名 (大人 128 名、学生 1 名、子供 7 名) となり、昨年の集客数 107 名に対し 127%、の目標達成率となった。
- ・家族連れも増え賑やかで暖かなフェスとなった。
- ・地域の自然食カフェの地元食材ランチ、地元の豆と野菜を使ったカレー、地元の地粉を使ったパン屋さんのサンドイッチ、地元焙煎士によるハンドドリップ珈琲などが用意したものが全て売り切れるとともに、フェス翌日の予約や店舗への訪問者につながったとの連絡があった。
- ・地元の農協の朝どれ野菜はあっという間の完売となるとともに、販売店を問い合わせる方も多かった。
- ・上田市内のホテルに宿泊されたお客様も 10 名程度と増加。

### ※自己評価【 B 】

【理由】雨天ながら集客目標 130 名に対し 136 名の集客を実現。併せ地域産品の販売や地元食材を使った飲食物を提供できたこと、地元商店との協体制が強化されてきたことは良かった。子供たちへの対応などボランティアスタッフの増員や、地域への知名度向上のために地域商店の協体制がさらに必要であるという課題も明確にすることができた

### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

・次年度は地元合唱団との連携を行い、オープニングや休憩時間を利用したテーマ曲の合唱を行い本年以上に地域との連携を強化していく。昨年に比べ家族連れが増えたことを鑑み、小さな子供たちへの対応をボランティアも含め強化していく。集客強化のためチラシやポスターにも SNS のリンク先や QR コードを明示していく。実行委員会に上田城址公園で長きに渡ってジャズコンサートを開催してきた上田ジョイントの渡辺女史に本格的に参入いただくことで募集体制の強化を図る。さらに次年度は実行委員会の増員を図り来年・再来年と続く「こだまジャズフェス」の内容の充実を検討し、その上で実行委員会・出演者・地域協力ボランティアなどが一体となってフェスを構築していく。

自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

## 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ラグビーW杯イタリア代表合宿に伴う「そばパスタ」「応援メニュー」提供による地域活性化
事業主体 (連絡先)	真田町商工会 (事務局 担当: 小山/TEL: 0268-72-4050)
事業区分	産業振興、雇用拡大に関する事業 (商業の振興)
事業タイプ	ソフト
総事業費	517,560円 (うち支援金: 356,000円)

### 事業内容

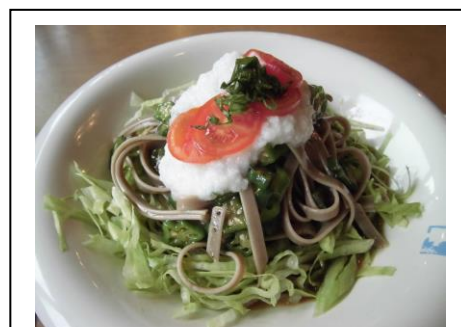
上田市菅平高原で2019年ラグビーW杯日本大会(2019年9月20日~11月2日)において出場国「イタリア」代表の事前合宿を行うこととなり、地元(上田市真田町、菅平高原)の受入意識の向上と飲食店宿泊業の地域活性化を図り、ラグビーW杯日本大会に対し地域全体の盛り上がりにつなげた。

#### 1 「そばパスタメニュー」の提供

イタリアの「パスタ」と日本の「そば」を融合した「そばパスタ」をオリジナルメニューとして7店舗の飲食店で提供。21箇所の旅館ホテル土産店等では「そばパスタ」乾麺を顧客にお土産として提供した。

#### 2 「イタリア代表応援店」のPR

菅平高原に向かう幹線道路周辺の飲食店に対して、ラグビーW杯イタリア代表応援店(22店舗)として、各個店で上田市製作ののぼり旗掲示、ノベルティを配付し来客にラグビーイタリア代表をPRした。



【そばパスタメニュー】

#### 【目標・ねらい】

- ①受入意識向上
- ②飲食店等地域活性化
- ③観光客増加

### 事業効果

- ・「そばパスタ」料理提供数 250食  
乾麺土産提供数 252袋
- ・菅平高原への来客数  
2019年7~9月 6,715 百万人 (対前年比5%増)
- ・今回を契機に地元市民も世界のトップ選手が訪れる日本有数の合宿地があることを実感し地域への理解・愛着が図れ、受入意識が向上した。

#### ※自己評価【B】

#### 【理由】

- ・ラグビーW杯の盛り上がりもあり地元の意識も向上した。
- ・参加店では予想以上の反響があった。
- ・観光客数が目標数値を4%上回った

### 今後の取り組み

今後は継続して「そばパスタ」を菅平のオリジナルメニューとして、行政や農業生産者等とも連携して地域の宿泊業、飲食業の地域活性化につなげるとともに、「ラグビーイタリアチーム」の合宿経験を活かし国際観光地へと発展していきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域公共交通と観光2次交通の融合による地域2次交通運行システムの確立形成事業
事業主体 (連絡先)	(一社) 信州とうみ観光協会 TEL:0268-62-7701 FAX:0268-62-7702 E-mail: <a href="mailto:info@tomikan.jp">info@tomikan.jp</a>
事業区分	(6) ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,114,448 円 (うち支援金: 1,400,000 円)

#### 事業内容

東御市内のワイナリーを巡る周遊観光交通に加えて、タクシーを活用した周遊型旅行商品及び交通事業者による「ワインタクシー」の運行をマネジメントし、来訪者ニーズに応じた案内を行う総合窓口機能を担った“地域二次交通プラットフォーム”の確立に取り組みました。

また、これらの二次交通について、旅行者の利便性向上のためWEB 申込ページの開設、パンフレット等による内外への広告宣伝を行った他、地域を散策してもらうために地域住民の意見を取り入れた「街歩きマップ」を作成し、観光交流の創出を図りました。

さらに、アンケートによるマーケティング調査を行い、次年度以降の運行に関する効果検証を行いました。



【作成パンフレット等】

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①東御市の二次交通についての周知拡大・利便性向上  
・デマンド交通：目標利用者数 30 人に対して 0 人（案内業務のみに留まったため）

・とうみ旅タクシーの催行：目標催行回数 20 回に対して 0 回（最少催行人数に及ばず実施に至らなかった。）  
その他の実績として、まるっと信州とうみ号利用者 296 人、ワインタクシー利用者数 32 人であった。

また、マーケティング調査事業により、利用者の動向やニーズを把握することができた。

②地域住民・地域事業者との観光交流創出  
「街歩きマップ」の作成等により、地域に踏み込んだ観光案内を行うことができた。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

満足度調査に基づいた利用者のニーズ等の集約を行い、より魅力的な周遊観光のためのプランを創出していく。また、地域の住民や事業者との情報共有の場を設け、観光客を迎え入れる体制づくりを整えることと並行して、(一社) 信州とうみ観光協会がシステム化された旅行者受入の総合窓口としての機能を向上させることで、一層の誘客促進・地域活性化につなげていく。

#### 【目標・ねらい】

- ①東御市の二次交通についての周知拡大・利便性向上
- ②地域住民・地域事業者との観光交流創出

#### ※自己評価 【B】

【理由】  
総合窓口としての機能は発揮できたものの、利用者増の観点からは改善が求められた。  
満足度調査の結果に基づき、継続して旅行者の受入対応を行うことが必要だと考えられる。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。  
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた  
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

### 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	湯の丸高原におけるスポーツを通じた健康増進事業
事業主体 (連絡先)	東御市陸上競技協会 (0268-64-5893)
事業区分	教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	549,760円 (うち支援金: 420,000円)

#### 事業内容

1 「第2回東御市湯の丸高原ランニングカーニバル」の開催

日本の長距離トップランナーの上野選手を招待し、記録会及びランニング講習会を開催した。

開催日 令和元年7月28日(日)

場所 東御市湯の丸高原スポーツ交流施設  
(全天候型400mトラック)

招待選手 上野裕一郎氏

2 「第2回湯の丸高原小学生駅伝大会」の開催

子どもたちの体力向上及び健康増進の意識向上を働きかけるとともに、近隣市町村のクラブチーム等に参加を呼びかけ、地域間交流を図ることを目的に、小学生を対象とした駅伝大会を開催した。

開催日 令和元年9月29日(日)

場所 東御市湯の丸高原スポーツ交流施設  
(全天候型400mトラック、800m森林ジョギングコース)



【湯の丸高原ランニングカーニバルの様子】

#### 【目標・ねらい】

- ①子どもたちの体力向上
- ②市民の健康増進への意識の向上
- ③スポーツ振興
- ④地域間連携

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

ランニングカーニバル参加者数: 84名 (目標150名)

日本のトップ選手を招待し、走り方の指導をしていただくとともに、子どもたち全員に伴走していただいたことは、子どもたちに大きな刺激となり、市のスポーツ振興に寄与することができた。

小学生駅伝大会参加チーム数: 14チーム (目標20チーム)

上田市から多くのチームに参加していただき、地域間交流を図ることができた。今後もお互いのイベントに参加し、交流を深めていくこととした。

#### ※自己評価【B】

#### 【理由】

予定の参加人数を若干下回ったが、概ね当初の目的である健康増進、スポーツ振興、地域間連携等を図ることができた。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

来年度以降も、「第3回」のイベントを継続して開催し、子どもたちの体力向上、市民の健康増進意識の向上、スポーツ振興を図るとともに、地域間連携の強化を図る。

近隣市町村のイベントを考慮し、開催日を別の日に変更することも検討し、より多くの方に参加していただけるように働きかける。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

## 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	祢津里山の草花、樹木のガイドブックの作成とその活用事業
事業主体 (連絡先)	祢津地域づくりの会 東御市祢津 917-4
事業区分	(3)教育、文化・スポーツの振興に関する事業 (8)その他地域の元気を生み出す
事業タイプ	ソフト
総事業費	636,605 円 (うち支援金: 509,000 円)

### 事業内容

祢津地区(里山地帯)は季節ごとに多くの草花が咲き、樹木も自生しています。

平成28年に作成した史跡巡りのガイドブックと今回の草花樹木ガイドブックと一緒に里山を巡ることで、郷土愛を育み、また、内外の方にこの土地の素晴らしさ知ってもらうため、次の取組みを実施しました。

#### 1 里山草花講座の開催

- ア 開催日 6月22日(土)、9月7日(土)
- イ 参加者数 6月22日 10人、9月7日 13人
- ウ 講義内容

祢津地域の歴史史跡一帯を巡り、現地で草花、樹木等を目で見、触れて名前等を再確認しました。

#### 2 樹木・草花ガイドブックの作成・配布

今回160種類の樹木や草花を写真と文章で紹介するガイドブックを作成しました。

- ア 作成部数 3000部
- イ 配布(無料)

祢津地域全世帯、公民館や学校等に2,200部。残部は向こう5年間の里山巡り事業に使用。

小学校の総合学習授業、理科の授業にもやくだててもらいます。



【ガイドブック】

#### 【目標・ねらい】

- ① 適切なガイドブックを作製し、地域内外の人にこの地の素晴らしさを知ってもらい、郷土愛を育む。
- ② 地域の活性化と外部へ情報発信を行い観光振興につなげる。

#### ※自己評価 【A】

【理由】満足のいくガイドブックができ、また内外に非常に好評であった。

### 事業効果

1. 大人から子供まで、分かり易く皆が親しみを感じるガイドブックができた。
2. ガイドブック発刊が報道されてから地区内、市内、市外から大変多くの配布希望の問い合わせがあった。地区内のひとはこのガイドブックに愛着をもってくれ地域の良さを再認識、郷土愛を育み、地区外の人はこのガイドブックと、祢津地区に興味を抱いてくれた。
3. 祢津地区以外の団体や、ホテル、美術館からも配布要請が続いていて、草花の季節に祢津を訪れてもらう良いきっかけができた。

### 今後の取り組み

毎年2~3回、東御市内外の方に史跡と里山地域巡りを実施し、ガイドブックを活用していく。またポールウォーキングや観光ツアー、祢津小学校の史跡と里山地域巡りの案内を依頼されたときはサポートしガイドブックを活用していく。



## 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	インバウンド実践事業
事業主体 (連絡先)	東御市おもてなしネットワーク 東御市滋野乙 62-8
事業区分	(3) 教育・文化・スポーツの推進
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,031,800 円(うち支援金:784,000 円)

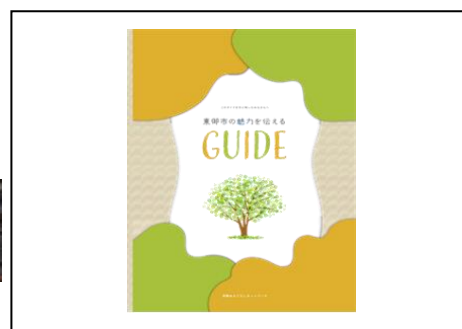
### 事業内容

- 東御市に外国旅行者を誘客するためのツールとして、[東御おもてなしネットワーク]専用ホームページを6か国語(英、仏、露、西、中、韓)で作成し、東御市の情報を発信するとともに、ガイドの受付を行う問合せホームを設けた。



【ホームページのバナー】

- ホームページとリンクさせ Facebook [Discover the tastes of TOMI]を開設した。
- 将来インバウンドやガイドに興味を持てるように中学生にもわかる観光地・史跡等の「GUIDE」を英語で作成し、学校に配布した。
- ISAK 及び東御市国際友好協会と協力し、英・仏・中の言語によるガイドのモニタリングを実施した。



【ガイドブック「GUIDE」の表紙】

### 【目標・ねらい】

- ①外国人旅行者の増加
- ②東御市の知名度向上

### 事業効果

- ① 専用ホームページの作成  
6か国語での情報発信することにより、アジアを中心に多くの国からの誘客が期待できるようになった。
- ② Facebook[Discover the tastes of TOMI]の開設  
ホームページとリンクしているので、より効果的に東御市の魅力が発信できるようになった。
- ③ GUIDE の作成  
500部作成し、中学生中心に配布し、英語をはじめインバウンドやガイドに興味を持てるようになった。
- ④ ガイドモニタリング  
アンケートを実施し、ガイドの外国人対応の資質向上を図ることができた。

### ※自己評価【B】

#### 【理由】

ホームページの作成が遅れたことにより、目標としていた5件のガイド受託は達成できなかったが、6か国語(英、仏、露、西、中、韓)でのホームページ及び英語でのGUIDE作成、ガイドモニタリングにより、外国人旅行者の受入環境を整備することができた。

### 今後の取り組み

- ① Facebook[Discover the tastes of TOMI]などを活用してホームページへのアクセス増を図る。
  - ② ガイドのためのガイドブックを多言語(英、仏、中などを予定)で言語別に作成する。
  - ③ 東京オリンピックまでにモニタリングを2回実施し、東御おもてなしネットワークの啓発を図る。
- 以上の活動を通して、インバウンドを進める。

### 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	八重原用水開発の祖黒澤嘉兵衛の生涯と偉業の子ども向け刊行事業
事業主体 (連絡先)	八重原用水の歴史と維持を学ぶ会 (東御市八重原2606)
事業区分	③教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,925,000円 (うち支援金: 1,540,000円)

#### 事業内容

当会は、平成28年度元気づくり支援金を受領して「黒澤嘉兵衛物語」を出版配布した。地域の皆さんからは、江戸時代初期の八重原用水開削が良く分かったと、感謝の言葉をいただいた。しかし、一番手に読んでもらいたい世代である子ども達には、読んでもらえなかった。表現が難しかったのである。

そこで、令和元年度は次の事業を実施した。

どうか先人が苦勞して拓いた八重原用水を、後世まで子どもたちに伝えてほしい。

#### 1 子ども向け「八重原用水開発の祖黒澤嘉兵衛の生涯と偉業」の刊行

1,000部を作成、配布し、北御牧小学校で行う八重原用水見学の補助教材として使用することも学校長にも承諾をいただいた。

#### 2 情報発信及び案内人育成

##### (1) 八重原用水見学会の開催

ア 市民向け(北御牧公民館と共催)

9月5日に再実施 15名参加

イ 小学生4学年向け(学校行事に講師派遣)

10月1日 八重原用水ガイド団から10名派遣

##### (2) 案内人の育成

見学会を人材育成の場として活用し、八重原用水を案内する講師の育成を図った。

登録ガイド数 2018年度10名 → 2019年度20名

※上記の他、刊行記念講演会を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止した。



【八重原用水見学の様子】

#### 【目標・ねらい】

- ①子どもが八重原用水成立の理解。
- ②小学校で用水見学時教材に使用。
- ③八重原土地改良区組合員に配布。用水守る機運を一層図る。
- ④八重原地区成立の過程を知り、郷土愛を深める。

#### ※自己評価【 A 】

【理由】マンガ制作にあたっては、漫画家の作画に尽きる。依頼した漫画家は江戸時代初期の時代考証に苦勞された。工事の道具・服装・住居等参考資料が少ないなかで絵作りを完成された事感謝です。

#### 事業効果

- ①黒澤嘉兵衛の生涯と偉業をマンガ化事業は、作者の絵作りも良く、図書館に配布した本を手にしてくれると司書教師にも感謝された。
- ②四年生担当教師から、用水見学の事前学習に有難い教材となると感謝された。
- ③八重原土地改良区理事長からは組合員に八重原用水成立への理解を一層深めてもらえと言われた。
- ④組合員にも今回刊行の漫画本を読んでもらい、絵も良く大人でも分かり易く有難いという感想だった。
- ⑤八重原用水見学ガイド数の増加  
目標 2018年度10名 → 2019年度20名 ⇒ 実績20名
- ⑥市民向け八重原用水見学会 参加者数  
目標13名 ⇒ 実績15名 (+小学校見学会参加者50名)

### 今後の取り組み

黒澤嘉兵衛の生涯と偉業の漫画化は、八重原土地改良区組合員に八重原用水を守る意識深めることや特に子ども達に八重原用水を未来へつなげる気持ちを育てることが出来ると思う。これからも小学校と連携して八重原用水見学を一層支援したい。

また、黒澤家に伝えられた「清長日記」も出版配布して江戸時代の八重原用水維持の様子も八重原土地改良区組合員に理解してほしいので出版に取り組みたい。